

平成 28 年度 第 1 回古賀市図書館協議会会議録

会議名称：平成 28 年度第 1 回古賀市図書館協議会

日 時：平成 28 年 8 月 23 日(火)15 時 30 分～17 時

場 所：古賀市役所第一庁舎 4 階第 2 委員会室

主な議題：①委嘱書の交付

②会長・副会長の選出

③古賀市図書館協議会について

傍聴者：0 名

出席者：橋本 由里委員 加藤 典子委員 鈴木 章委員 河村 正彦委員
村山 美和子委員 渋田 京子委員 久池井 良人委員 石丸 貴子委員
以上 8 名

欠席者：0 名

事務局：6 名

配布資料：①レジュメ

②古賀市図書館協議会委員名簿

③平成 23～27 年度年度別事業実績

④平成 28 年度図書館事業計画

⑤リーパスプラザこが交流館オープンおめでとうキャンペーン（チラシ）

会議内容：以下のとおり

1 開会のことば

（事務局） この度は快く古賀市図書館協議会の委員を承諾いただきましてまことにありがとうございます。本日の司会進行をさせていただきます文化課図書館係長海老名と申します。どうぞよろしく願いいたします。マイクの関係上座らせていただきます。

資料の確認をさせていただきます。机の上にクリップ止めで置いている資料でございます。レジュメ、古賀市図書館協議会委員名簿、平成 23 年度から平成 27 年度の年度別事業実績、平成 28 年度図書館事業計画、リーパスプラザこが交流館オープンおめでとうキャンペーンのチラシ、市立図書館の利用案内を最後につけております。以上でございますが不足等ございませんでしょうか。ないようでしたら進めさせていただきます。

本日はこの第二委員会室にて会議を進めさせていただきます。本会議につきましては会議の公開制度に基づき傍聴席を設けております。会議の内容につきましては古賀市のホームページ上に公開されますのであらかじめ御了承ください。

それでは早速ですが古賀市図書館協議会第 1 回を開催いたします。開会の言葉を文化課長星野よりいたします。

（課 長） こんにちは。文化課長の星野と申します。どうぞよろしく願いいたします。マイクの関係がございますので座って開会の言葉を申し上げます。本日も大変暑い中お集まりいただきまことにありがとうございます。

今回の古賀市図書館協議会は、この協議会を設置いたしまして初めての開催と

なります。今後の図書館の発展のため委員皆様それぞれの御経験でございますとかお立場から御意見をいただきながら協議を今後とも深めていければと考えております。

それでは平成 28 年度第 1 回古賀市図書館協議会を開催いたします。どうぞよろしく願いいたします。

2 委嘱書の交付

(事務局) 続きますして委嘱書の交付を行います。なお、敬称は略させていただきますので御了承ください。名簿の順にお呼びしたいと思いますので、お名前を言われた方は前にお進みください。お願いします。(委嘱書交付)

3 教育長挨拶

(事務局) 続きますして、古賀市教育委員会教育長長谷川より挨拶を申し上げます。

(教育長) 改めましてこんにちは。先ほど開会の挨拶で星野課長が申しましたけど、だぶるところが若干あるかと思います。本日は本当にそれぞれ仕事がありでお忙しい中、お集まりいただきまして心から感謝申し上げます。今委嘱書をお渡しいたしましたけども、快く委員を引き受けていただいたこと改めて重ねて感謝申し上げます。

8 月 2 日から中央公民館、交流館、図書館、歴史資料館として生まれ変わりました古賀市生涯学習センター、今後愛称「リーパスプラザこが」が新たにスタートを切り、これまで図書館、歴史資料館の複合文化施設でありましたサンフレアこがが 7 月末をもって廃止になりました。合わせて古賀市複合文化施設運営協議会という協議会が使命を終えたところでございます。

これに伴いまして、先ほど紹介がありました古賀市図書館協議会を新たに立ち上げ、古賀市立図書館の円滑な運営及び事業について様々な御意見を皆様方からお伺いすることになりました。忌憚のない御意見を今後 2 年間の間いただきたいと思っております。

本会が今後充実することを願ひまして、簡単でございますけれども挨拶とさせていただきます。今後 2 年間本当によろしく願いいたします。

4 自己紹介

(事務局) 自己紹介に移らせていただきます。初めに委員の方に自己紹介を簡単に構いませんので、名簿の順ということによろしいでしょうか。お願いいたします。

(自己紹介)

5 会長・副会長の選出

(事務局) 続きますして、会長、副会長の選出に移りたいと思います。古賀市生涯学習センター条例施行規則第 39 条により協議会委員の互選により会長及び副会長を各 1 人置くということになっておりますが、事務局より御提案させていただいてもよろしいでしょうか。

それでは、会長に鈴木章委員、副会長に加藤典子委員をお願いしたいと思っております。

鈴木委員は先ほど自己紹介の時におっしゃっておられましたが、福岡教育大学で学校図書館司書教諭養成講座を持たれ指導にあたっておられます。4 月まで歴史資料館を含めた古賀市複合文化施設運営協議会の委員も務めておられまして、今年度発足するこの会を進めていただくにあたり適任であると考えております。

副会長の加藤委員も、現在、社会教育委員を務めておられまして、古賀市子ども読書活動推進計画を策定していきます委員もお2人とも兼ねていただいております。鈴木委員には会長もお願いしております。協議を進めていく上で、関連が深いと考えておりますので、兼ねてお願いできればと思っております。いかがでしょうか。(拍手)

ありがとうございます。会長と副会長が決定いたしましたので、中央の席にお移りいただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

6 会長挨拶

(事務局) 会長に就任されました鈴木会長より挨拶をお願いいたします。

(会長) 本当は適任の方がいらっしゃると思いますが、私でよろしければということで、引き受けたところでございます。

他市他町の公共図書館では、様々な新しい取組があり、色々な経営のシステムがあると思います。佐賀県の武雄市図書館のような例もありますが、私は古賀市の図書館の進め方、方向性は公共図書館の基本的な運営をしており、さらなる充実をめざすべきじゃないかと思っております。この会は2年間ということでもありますけれども、先ほど教育長さんのおっしゃられたように、そのことを含めて、お力添えいただきながら検討していきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひしたいと思っております。

(事務局) よろしくお願ひいたします。ここで教育長は公務のため退席させていただきます。

7 協議等

(事務局) 続きまして、協議に入りたいと思っております。机上の名札は真ん中を向けて置いていただくと助かります。委員長だけではなく、皆さんに見えるようお願いいたします。これからの議題については、会長に進行をお願いいたします。よろしくお願ひいたします。

(会長) 協議の議題に沿って進めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

今日は第1回ですので、計画、状況など、最初の説明が多いと思っておりますし、今年度の計画について説明を受けながら、ここに書いていない議題等、意見、感想等を出して、もしこういったことを検討していただきたいことがあれば話していきますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

(1) 古賀市図書館協議会について

(会 長) 梅谷館長説明をお願いいたします。

(館 長) 今回新たに設置する古賀市図書館協議会について説明させていただきます。

図書館協議会は、図書館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、図書館が行う図書館奉仕につきまして館長に対し意見を述べる機関として、図書館法第 14 条で設置が求められているものでございます。公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準では、図書館協議会を設置し、地域の実情に踏まえ、利用者及び住民の要望を十分に反映した図書館の運営がなされるよう努力するものとしてとされているところでございます。

図書館協議会の設置にあたりましては、地方公共団体の条例で定めることになっていますが、古賀市では、図書館は、今まで複合文化施設サンフレアこがの中の施設であったことから、図書館協議会の役目はサンフレアこがの運営協議をするために設置しておりました古賀市複合文化施設運営協議会が担っておりました。しかし今回、研修施設の交流館がオープンいたしまして、中央公民館、交流館、歴史資料館、図書館の四つの施設が一つになって、古賀市生涯学習センター、リーパスプラザこがという新たな複合施設になりましたことから、新たに図書館の設置も含めた古賀市生涯学習センター条例が施行されました。第 19 条で、複合文化施設運営協議会にかわりまして、古賀市図書館協議会の設置が定められたところでございます。

公立図書館運営にあたり、図書館の運営のあり方につきましては、今大きく変わろうとしております。平成 20 年に図書館法、平成 24 年には図書館の設置及び望ましい基準が社会の変化や新たな課題への対応の必要性から改正されまして、今までの図書館サービスに加えて、図書館の運営状況に関する評価や評価の実施、その結果の公表、図書館での学習成果を活用して行う多様なボランティア活動の機会や場所の提供、図書館に対するニーズや地域課題の複雑化、多様化への対応、図書館の運営環境の変化への対応、危機管理への対応など、より幅広い図書館活動、運営が求められるようになっております。

現在、古賀市立図書館には一般書 14 万 9000 点、児童書 6 万 6500 点、AV 資料 7700 点、郷土資料・行政資料 3300 点の約 22 万 6000 点の図書資料を所蔵しております。市民の皆さんへ読書の機会の提供、利用促進を図ってまいりました。図書館活動の状況につきましては、カウンター業務を除きまして過去 5 年間の行事の実績を表にしておりますので、別紙資料としてお配りしております事業実績の表を参考にさせていただけたらと思います。経費といたしましては、平成 28 年度は人件費図書資料費を含み、1 億 9076 万 6000 円の予算で運営しております。昨年度は約 20 年ぶりに大規模改修を行いまして、150 平方メートルの増床、照明の LED 化及び空調設備の更新工事を行って施設の充実を図ったところでございます。

図書館の利用状況ですが、平成 25 年度の文化庁の国語に関する世論調査で読書量は減っていると 65%の人が回答しておりますが、古賀市立図書館におきましても、年々入館者数、利用者数は減少しており、大きな課題となっているところでございます。

子ども達の読書離れを食いとめようと第 3 次の子どもの読書活動推進計画を策定中でございますが、図書館が読書活動のみならず、地域課題の解決への情報拠点と

して、あるいは多様な学習機会の提供の場として、多くの市民の皆さんに利用していただけるようさらなるサービスの充実、改革をしていかなければならないと思っていますところでございます。

最初に説明しましたように、図書館協議会は図書館法が設置を求めている機関で、地域の実情を踏まえ、市民の要望を反映した図書館の運営がなされるよう、意見を述べるあるいは諮問に応じていただく機関でございます。古賀市立図書館は、図書館協議会の皆さんの御意見、御要望をもとに、より一層充実した図書館運営を行いたいと思っておりますので、何とぞ御協力のほどよろしくお願いいたします。説明を終わります。

(会 長) ありがとうございます。これまでの流れや協議会にかかわること、今後の課題なども含めて御指摘されました。改革のあり方やサービスの方向性も課題ではないかということも含めて言われました。これは23年度から27年度にかかわることも提示されたと考えていいですか。

(事務局) これから先の図書館協議会で様々な協議をされるに当たりまして、参考とさせていただき資料としてお配りさせていただいております。今の段階ではその資料をもとに簡単なことなら答えられるかもしれませんが、詳しい内容になると答えられないかもしれません。質問されても結構でございます。

(会 長) 今館長さんから説明があった内容、資料等も含めて、御質問やお聞きになりたいことがありましたらどうぞ。

(久池井委員) 入館者数が減っているということですが、これは全国的な傾向です。大幅に増えているところは新しく開館したとか、リニューアルしたところが主です。平成28年度統計はまだとれていないと思うのですが、今回2月に改修されて、非常に良くなりましたね。その結果、この4月からの状況はいかがでしょうか。

(館 長) 8月1日に交流館がオープンし、8月2日から営業が始まったかたちになるのですが、最初の3日間はかなり多かったです。しかし図書館だけのリニューアルが終わった時点ではそれほどの増加は見込めなかったような状況です。ただし、全体がまだ工事中でございますし、外構の工事が終わっていないので、図書館が開いているか開いていないかわからないという市民の方もおられたようですし、図書館の改修工事が終わった後すぐには増えなかった状況にはあります。

ただし8月1日以降は若干増えているのかなという気はします。1000人を超える日が今月3回、4回ぐらいあります。1000人を超える日というのは、一昨年、昨年はなかったような状況がありましたので、多分増えているのではないかと思います。

参考までに事業実績の表をお配りしておりますけども、1番上の行に入館者数と貸出冊数の数字をお示ししております。1番右端に三角マークがついていますけども、全部右に行くほど、減っているという状況でございます。平成27年度は9月から1月まで閉館しておりますので、この数字は参考になりませんが、平成26年度までの数字を見る限り、右肩下がりで下がっている状況であります。これは先ほど久池井委員さんから言われたように全国的な状況でもあるようです。糟屋地区を見ても下がっているような状況ではあるようです。

(会 長) はい、どうぞ。

(久池井委員) 複合施設として今度8月に交流館ができましたが、非常に内容的に充実している

と思います。図書館は町中の交通が便利なところに移動したということは確かに多いですね。利用時間を拡大したとか、これは物理的に多くなりますね。それ以外には複合施設に入っている、その強みを生かしている図書館は非常にのびていますので、古賀市の図書館は2月にリニューアルされましたけれどもさらにその上に、8月に今回、交流館ができましたね。これを上手に利用したら、ずっと今まで下がってきているとおっしゃいましたが、下がり止めに絶対になるのではないかと思います。そういった意味では、今年度の今後の推移を大変注目したいと思いますし、図書館もやりがいがある時期じゃないかなと思っております。

(会 長) 私も図書館横の生涯学習センターの交流館に新しく開館してからすぐに行きましたが、きれいで行って見たくなりますね。そしてぐるぐる回ってみたのですが、いろんな活動もされていました。今、久池井委員さんがおっしゃったように、複合施設になることによって、人を呼び、図書館にもいい形で影響してまた利用者が寄ってみようか、見てみようかなど。そして、こんなに広くなったと。リニューアルしましたよね、図書館の建物も。入館者数は、去年は別としても、これから増えるのではないかと思いますね。

(副会長) ほかの方、どうでしょうか。行かれた方で感じたことでも結構だと思うのですが。加藤です。交流館、図書館ともに行きましたし、利用もさせていただいています。図書館の増床改築に関しては、増床してまだ自分が慣れていないので、その辺ちょっと分類で、慣れていないなというところはあるんですが、サイン等が以前よりもわかりやすくなったと感じています。大きな字で色別で書架の上に分類が書いてあって、非常にわかりやすくなったと感じています。いろんなニーズを持った方にもわかりやすい図書館になる工夫をされているのではないかと感じています。できれば一階でつながるともって人の流れが良いだろうと思うのですが、建物を建てる時点でできないということだったので。

交流館が今広々としているので、誰でも入れるロビーのところに歴史資料館とか図書館の資料、図書館ではこんな本が読まれていますというような図書館の情報等も、交流館の入り口等に掲示板等を設けていただけて掲示すると、交流館にも図書館にも人の流れができて、いい形で連携できていくと思っています。頑張ってください。

(会 長) ほかにどうでしょうか。全ては利用者のためというのが図書館の考え方としてあると思います。その時に環境的なところでは、例えば分類のわかりやすさ、あるいは館内の配置図の表示のわかりやすさは大事なことだとよく言われます。結局いざなうことにつながっていくと思います。そういう意味で、色分けのこと、小さい子どもでもわかりやすいとおっしゃったのは大事な指摘だと思います。

関係ないように思えるけれども実はとても大事なところもあるんですよ。入り口、あるいは入ってから何があるということ、看板等で表示されることも含めて、それがまた今度行ってみたいということつながるのはとても大事なポイントの一つだと思いますね。

(2) 平成 28 年度図書館事業計画

(会 長) 今年度はもう既に始まっておりますけども、その辺りの説明を受けながら、また御指摘いただければと思いますので、次は係長さんから説明をお願いしたいと思います。

(事務局) 平成 28 年度事業計画について説明をいたします。半分以上は報告という形になると思うのですが、よろしくをお願いします。

4 月 16 日、17 日子ども読書のイベントを開催しました。4 月 23 日に子ども読書の日を設けられておりますので、そこに充てまして開催をしております。

事業としまして「親子で楽しもう絵本ライブ」にはシングルパパで絵本伝道師の宮原礼智さんをお迎えしました。子ども達、赤ちゃんを連れた家族連れなど 55 名の親子に参加いただきました。子ども達には楽しい話を、親御さん向けには子育てを応援するメッセージの入った本を読んでもらいました。参加された保護者の中にも、目頭をぬぐうようなシーンもありました。「絵本は間違いがないです」と、絵本を親子で楽しむことをすすめられまして、大変好評でした。

お楽しみ貸出しは赤ちゃん向け、小学校の 1、2 年生向け、3、4 年生向け、5、6 年生向け、中学生向け、ヤングアダルト向けと 60 袋を準備しましたが、全て借りていただくことができました。

次のぬいぐるみお泊り会、これは前年に引き続き、好評でしたので実施しております。ぬいぐるみと一緒におはなし会を楽しんだ後ぬいぐるみとお別れして、一夜ぬいぐるみが図書館に泊まり、図書館内を探検する設定で、その様子を写真で撮り、次の日にぬいぐるみと一緒にお返しするというものです。ぬいぐるみが本を読んでいる写真を撮りましたところ、その本を自分で読んでみようというふうに思い、借りて帰る姿が見られました。

「あくしゅでこんにちはことちゃん」は、今日来ていただいておりますコスモス文庫の村山さんに昨年度着ぐるみのことちゃんを寄贈いただきまして、ことちゃんがお子さんと握手したり写真を撮ったり、最後には踊っていただいたりもしまして、大変子どもさんに喜んでいただきました。図書館が親しみやすい場所として、読書の推進を進めていく上で大変活躍してくれております。

また、「親子でつくろう読書ノート」を実施しました。2 月より図書館がリニューアルオープンしまして、図書館システムを更新いたしました。読んだ本の記録のシールが印刷できるようになりました。親子でシールを貼って読書記録を残すことができる読書ノート作りに 27 名の親子に参加していただきました。表紙は、ことちゃんのぬり絵ができるものを含めて 3 種類用意し、記録の用紙をつけてそれぞれのオリジナルの読書ノートを作っていただきました。

さらに子ども映画会も行いまして、全体として計画どおりに実施できたところです。

しかしながら、図書館横の駐車場が工事のために利用できませんでした。行事の当日から利用できるようにしていたのですが周知不足で、全体的に参加人数が少なかったこと、行事への集客を増やすことが今後の課題となりました。終わった後に、もう終わったんですかという電話をいただいたのがとても残念でした。

次に、新小学校 1 年生の読書ノートを配布するというので、4 月中旬より計画をしておりましたけれども、少し準備が遅れまして、5 月から 6 月中旬までに市内

6 小学校へ行くことができ、約 590 名に渡すことができました。職員が 20 分ぐらいのおはなし会をしました。また、希望する学校には先ほど申しました着ぐるみのことちゃんと一緒に出かけまして、ことちゃんから読書ノートを手渡すことができました。このノートには小学校の司書さんが 1 年生におすすめする本のリストと一緒に載せて作成しております。

6 月には全 4 回の予定で読書ボランティア講座「おはなし会の道具づくり」ということで、絵本『ぐりとぐら』の人形を軍手を使って作成する講座を計画しました。布の絵本制作ボランティアつくしんぼさんに講師をお願いしました。25 人の申し込みがありまして、4 日間で延べ 94 人の参加ということで、皆さん楽しみながら作成をされておりました。

7 月にはおはなし会スペシャルということで、市内の地域文庫さん 6 団体に大型絵本の読み聞かせや、ストーリーテリング、パネルシアター、劇、文庫を利用して子ども達のハンドベル演奏もありまして、親子で楽しめる時間を過ごしました。子ども 49 人、大人 44 人、合計 93 人の参加があり、最後は作って遊ぼうということで、動く車の工作でしめくくりました。

7 月後半から 8 月にかけて、中学生読書サポーター養成講座を 3 回の予定で行いました。

内容は、1 日目は図書館見学、司書の仕事体験、2 日目は図書館に展示コーナーをつくるということで、テーマを決めて準備を行いました。3 日目は本日の朝だったのですが、講師をお迎えして P O P 作成講座を行いました。本の紹介 P O P を作りまして、図書館入り口の展示コーナーに設置いたしました。ヤングアダルトコーナーの整備もしていきたいと考えているところです。図書館では中学生、高校生の利用が減少傾向にあります。多感な時期に本を身近に置いてほしいと願い、読書推進につなげていけたらと思っております。

読書講座につきましては年 3 回予定をしております。1 回目は、暮らしの講座「図書館でつかむ農業のヒント、野菜づくりのコツと裏ワザ」を 7 月 31 日に行いました。農文協の佐藤圭さんを講師に迎えまして、夏野菜を秋まで収穫するコツ、虫の駆除の裏ワザなど、映像を交えながら、学ぶことができました。

当初募集が 30 名の予定でしたが申し込みが多く、60 名を超える人気講座になりました。当日キャンセルがありまして 56 人の参加となりましたけれども、次回を希望する声も多く聞かれましたので、時期を見て、また開催を考えているところです。

2 回目は 9 月 18 日「松本清張ワールドを歩く」ということで、講師に荻原桂子さんを迎えて行いたいと思っております。3 回目は 12 月 18 日に読書講座「作家村上春樹について」ということで、元九州大学教授で現在朝日文化サークルの講師をしていらっしゃいます岡野進さんを講師にお迎えし実施する予定にしております。

10 月には図書館まつりを予定しております。昨年度は図書館改修工事のため 9 月から閉館しましたので、図書館まつりを 7 月に行いましたけれども、今年度は例年どおり 10 月 28 日から 3 日間、30 日まで行います。

内容につきましては、ブックリサイクル、クイズ、川柳・標語募集、ことちゃんぬりえ、布絵本展示、しおりづくり、親子木工講座、読書講演会でおはなしおばさんの藤田浩子さんをお呼びする予定にしております。詳細につきましては今後協議

しながら、詰めていきたいと思っているところです。

12月には親子おはなし会「ぐりとぐら人形を使ったおはなし会&カステラづくり」を予定しております。図書館がリニューアルしまして、図書館の児童コーナーに大きなぐりとぐらのタペストリーを布の絵本制作ボランティアつくしんぼさんに作っていただいて飾っております。6月に「ぐりとぐら人形を作しましょう」ということで、読書ボランティア講座で人形を作りました。締めくくりに今度はぐりとぐら人形を使っておはなし会をしまして、お話の中に出てくるカステラ作りまでしてしまおうということで、1冊の絵本を通して親子のふれあいをしていただこうと思っているところです。

1月22日日曜日には、古賀市親子読書会「第48回古賀市親子読書のつどい」を行っていききたいと思っております。場所については例年リーパスの大ホールで行っていましたが、今年度は新しくできました交流館の多目的ホールでの実施を考えております。

29日には、前年に読書ボランティア講座も来ていただきました徳永明子さんと石川文代さんをお迎えして、大人のためのおはなし会を予定しております。

蔵書点検は2月27日から3月6日までを計画しております。

月例行事につきましては、表の下に記載しております。土曜おはなし会は毎週土曜日、赤ちゃんおはなし会は第2水曜日、小さい子のおはなし会は第3水曜日、子ども映画会は第2日曜日、名画会は第2土曜日、ブックスタート、これは子育て支援課の事業ですが、図書館としても支援しながら進めております。

今年度からセカンドブック事業がスタートしております。赤ちゃんへのブックスタートに続きまして、3歳児にも絵本を手渡し、継続した読書、親子のふれあいを続けていただこうと取り組んでおります。月2回、平日と日曜日にセカンドブックおはなし会を設定しまして、読み聞かせの大切さをお話しした後、5冊の絵本の中から、1冊選んでいただいてプレゼントするという流れにしております。

現在6回実施しまして、計14組の親子に手渡ししております。ただ、現在約200名近くの方へ案内文書をお渡ししておりますので、7%ぐらいの方しかお渡しできておりません。今後、幼稚園や保育園のお知らせ、掲示などアピールに努めていく必要があるなということで、今からの課題かなというふうに思っております。

また、先ほど話も出ました古賀市子ども読書活動推進計画を今年度見直しまして、第3次計画をつくる予定にしております。

この推進計画は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づきまして、「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」、「福岡県子ども読書推進計画」を基本としまして、子どもが読書の楽しさやすばらしさに出会い、読書を通じて心の豊かさや人生をより深く生きる力を身につけることができるような環境づくりを進め、子どもが健やかに成長することを目指すものです。この計画は、おおむね5年ごとに見直しを行ってございまして、平成18年に第1次計画を策定しました。平成24年に改定しまして、本年度、平成28年度が第3次計画の策定の時期になっております。

そこで、本年度古賀市子ども読書活動推進計画策定協議会を立ち上げまして、7月19日に第1回の策定協議会を開催しております。9月30日には第2回を予定してございまして、具体的な審議を行っていききたいと思っております。今後の進捗状況

につきましては、随時御報告していきたいと思ひます。

また、資料の中にチラシをつけております。8月1日からリーパスプラザこが交流館がオープンしたということで、図書館にもたくさん来ていただこうと、8月2日から8月31日まで「交流館オープンキャンペーン図書館にもおいでよ」ということで、しおりや絵葉書のプレゼント、一般の方にも使っていただける読書ノートの配布、また、ことちゃんが図書館でお迎えしますということで、利用促進につながるキャンペーンを行っていますので、委員の皆様もぜひお立ち寄りいただければと思っております。以上です。

(会長) ありがとうございます。計画そして考え方、内容というのは、私達協議会の大事な部分だと思います。質問意見、感想等で結構です。ぜひ全員一言でもしゃべって帰っていただきたいと思ひます。

読書ボランティア活動または行事関係は、石丸委員さん、渋谷委員さん、村山委員さん、加藤副会長さん。橋本委員さんには、読書ノートの件、あるいは学校と図書館の連携という観点、特に今年は全国的に学校図書館年ということで展開されています。河村委員さんや久池井委員さんには、全体的な取組推進、良いところ、あるいは課題というような観点で意見など、三つの観点で、出していただければと思ひます。最初は読書ボランティア活動また行事関係で、4人の委員さん副会長さん、どなたでも結構ですが何か感想など一言ずつ言っていただけたらと思ひます。

(村山委員) それでは、読書ボランティアの件について、私から気がつきましたこととお話しいたします。

この計画を見ますとお話とかが多いんですね。もちろん、子ども達は物語を喜びます。問題点としましては、小学校高学年、絵のついた絵本からその上にあがりきれなくて、文学あたりに届く前に親御さんもあきらめて、学校で読んでいるからというような感じで話しておられる様子がよくわかります。このようにして、本を読むことについて啓発していかれることはすごく大事だと思います。

最近、推理小説や時代劇小説を読み飽きたような方も文庫においでになるわけです。高齢の方に「今絵手紙をしているので、絵手紙の本を見せて」といわれて「読まれませんか」とお見せしましたら、「描き方が描いてあるけん良か」と言ってお借りになってなかなか返されません。「この花も描いてあるし、こんな花も描いてあるけど、その時期じゃないと描かれんから」って。それで本を返す時期になりました。配本が終わって次の配本の時には絵手紙の本を入れておりませんでしたけれども、大変残念そうなんです。文庫の配本以外に、図書館に行きまして、10冊くらい絵手紙関係の本を持っていきましたら大変喜ばれて、結局一つ選んで購入されました。お年寄りですけども、大変まめにおいでになるわけです。

もう一つ、私習い事をしておりまして、歌を歌っております。その先輩から「村山さん。この本読んだね？」といわれて、「読んでない」と。「本屋大賞の1番で音楽関係の本よ」と言っ。もう1人の方から「市立図書館で予約しているけれど7番です」とか、「私読んだから貸すよ」って言われました。交流館ができたということで、隣で色々な習い事等をされる方が、自分たちの活動に関係のあるような本に関心をもって図書館においでになればいいなと思ひます。

お勉強のお世話、読書その辺りは図書館としては活用が多いのではと思ひますけ

ど、ハウツー物、趣味関係ももっと表に出して活動していかれるといいのではないかと。それは私が「村山さんこの本読んだ？」と言われて「やっぱり読まなければいけないかな」と思うように、芸術祭などでリーダーをなさっておられる方が本の紹介をなさるとか、そういう方がどんな本を求めてあるかアンケートしてそういう本を揃えるとか、そういうことでつないで、先生から「図書館に行ったらこんな本があるから見たらどう」とか紹介されていくともっと広がりが出てくるのではないかと思います。

今のところブックスタート等の子ども達の読書に力が入っておりますけれど、私が見ておりますと、大体小学校の高学年ぐらいになったら、親御さんは手をお放しになります。「もういいかな、小学校で読んでいるし」という感じで。「子ども達にあんまり言って無理に読ませても」ということで放されると、マンガの方に移っていくようになるのですが、それを高めていくためには、やはり親御さんが自分で本を読んでいる姿を子ども達に示していかないと子ども達はなかなか、目標を持ってずに途中で挫折してしまうのではと思うんですね。

そういう意味で、文学もありますけれど、趣味の本なども取り入れて、親御さん自身が読むようになっていければいいと思うんですね。それで、文庫においでになるお母さんで、どの本が良いかわからないんですって言われるんですよ。私は小学校の教師でございますが、いい本というか自分に合う本というのは宝探しのようなものですよね。自分が好きなシリーズを見つけ出すとかですね。それで、結局その他力本願というか、良いと言われていた本をもれなく読むわけですよ。それが終わるともう役目が終わったと思ってお母さん方は手を放す方が多い。ただそこをどう食い止めていくかということがすごく重要じゃないかと思います。以上です。

(会長) ありがとうございます。趣味など多角的な蔵書計画も必要ではないか、催し物の時にPRしていったらとのお話がありました。宝探しのようなものというのは良い表現だなと感心して聞いておりました。ありがとうございます。他の方いかがですか。

(石丸委員) 石丸です。直接読書ボランティアということに関わるかどうか、何点かお聞きしたいと思ったこともありますので、聞かせていただきます。

一つ、先ほど中学生読書サポーター養成講座のところで、YA(ヤングアダルト)の充実を考えると海老名係長からお聞きしましたけれど、これは提案というか私の考えですが、YAを読むのは中高生くらいの子供達と思うんですけど、図書館の書架の配置も関係すると思うんですね。このくらいの年頃の子供達って逆に知り合いの人に会いたくないとか、お友達に借りているのを見られたくないとか、そういうようなこともあって、ある図書館を私見学したときには、あえてわかりにくいところに置いていたりとか、見えにくい余り人目に目につかない場所に配置していると聞いたこともあります。そういう工夫も中高生の子供達に図書館に来る理由の一つになるのではと思いますので、御提案させていただきます。

それと、村山さんもおっしゃいましたが私も、図書館は子どもだけのものではなく、これからは高齢者支援の場所でもあると思うんですね。前々から置いてありましたけれどもリニューアルされて、レファレンスカウンターをわかりやすく設置されていますけれど、私が図書館を利用したときに、御高齢の方がお見えになっていて、その方にすごく丹念にお話を聞かれてアドバイスをされたりしているのを

見かけました。全部が本の話じゃなく、世間話とか身の上話を聞いてあるなっていうのを耳にすることもありますけれど、これからの図書館の役割として居場所ということもあるのではないかと思いますので、そういうことに対しての図書館員さんの研修も事業の計画の中に盛り込んでいただけたらいいのではと思いました。

図書館の事業計画ができるだけ多くの人に来てもらいたいということはわかるのですが、イベント的なことしかここには書いていなくて、公立の図書館って例えば地元の資料をちゃんと保管しておく役目もあると思うんですよね。人がどうやってくるかっていうのももちろんとっても大事なことですけれど、地元の文化や資料をどれだけ守っていけるかという観点からも、図書館は公立の図書館としてその使命を果たしていただきたいと思いました。

(会 長) 全部で3点ですね。1点目はヤングアダルトの関係でこっそり読みたいという状況があるわけです。2点目は高齢者支援の場という面があるのではないかと。3点目は地域資料の確保とそのPR、地域の資料、船原古墳のことも最近はありますね。しっかりここに置いてあることのPR等も含めて、特色ある図書館、「どこの図書館行ったら同じ」ではなく、古賀市だからできる、そんなことの指摘じゃなかったかと思えますけれども。館長さん係長さんどうでしょうか。

(事務局) 御意見ありがとうございます。YA書架の配置についてご提案をいただきました。前はちょうどカウンターの正面だったんですよね。多感な時期、発達段階に照らし合わせても、皆さんが見ているところに行きたくないっていうのが見え隠れするところがあったので、今は漫画などを横に置きながら学習の間に見てもらおう感じで、調べ学習コーナーと一緒に見ていただけるような配置を心がけております。

高齢者の方は特に平日の図書館利用が多いです。図書館は赤ちゃんから高齢者まで、様々な年齢、趣味、障害者にも対応ということで、いろんな工夫を考えているところです。

今年度は文学ばかりではなく、今までなかった暮らしの講座というのを設けておりまして、農業に関してのお話をさせていただきました。カウンターで高齢者の方が庭をつくったり野菜をつくったりということを知ることが多く「野菜が病気になったけど本ないですか」とよく聞かれましたので、まず野菜づくりについてやってみようかということで開催しました。申し込みが本当にとっても多くて、70人くらい行くのかなと思っていただけなんですけれども、やむを得ない理由で来られなかったのも、ちょっと残念でした。とても喜ばれて、「帰っても実践できる」、「もう1回してよ」との声をたくさん聞かせていただきましたので、今後も暮らしに即した図書館に来られる方のニーズに合わせたことを考えながら計画していけるといいなと思っております。

(館 長) さきほど地域資料、行政資料っていうことを言われましたけど、先ほどは説明の中で3300点ほどの行政資料、地域資料、郷土資料を置いてありますといいましたが、開架の場所はスペース的には1カ所、5段ぐらいしかありません。閉架の中にはかなりの郷土資料、行政資料を置いております。古賀市が発行した広報誌、昭和30年合併当時のスクラップも全部あります。それを見れば大体古賀市、古賀町の昭和30年以降の歴史は大体わかるかなというぐらいボリュームがあると思います。古賀市の古くからの会社、例えばニビシ、西部電機とか、地域の会社の歴史資料などがありましたら、会社からいただきたいという考えもあります。

古賀市の歴史がわかるような行政資料、郷土資料というのは、これから先、まだまだたくさん集めていきたいと思っております。

(河村委員) 河村です。今議論が進んでおります成人、高齢者にふさわしいような活動につきましては、前回の複合文化施設運営協議会の時にも私達何名かの委員がその重要性は既にお話をさせていただきました。人口の動態を考えましても、高齢者はほとんど3分の1になるような勢いで増えていくわけです。私もこの事業計画の経緯を聞いていまして、56人参加の「暮らしの講座」というのは成人者関係のプログラムではないかと思いました。

私としても、前回の委員会からの引き続きもあり、高齢者に対する図書館の取組をもっと今年度以降拡充していただきたいのです。皆さんの意見を聞いて、図書館側、運営協議会で協議をするなり新しいプランをつくるなりして、充実させていただけたらいいなという気持ちがすごくあります。

実はこのことは従来の幼児児童、学校の生徒さん方向けのすでになされている貴重な取組と全く矛盾するものではありません。当然将来ある子ども達ですから、もちろんものすごく必要です。それも十分わかるし十分されていると思います。今度はそれに加えてさらにプラスすべき拡充すべき分野はどこかということ、高齢者に対する図書館の支援活動です。すぐにはできなくても結構ですから、図書館側、そして今の委員会全体を含めて何か良い案を、少しずつでも進めてほしいと願っています。

暮らしの講座が好評だったのは、成人の方の図書館を使って学びたい、自分たちの毎日の暮らしを豊かにしたいという成人の方の気持ちがここに反映されているからだなと思いました。

例えば、もう一つ、クイズ、川柳・標語募集というのが書いてありますね。実は私の知り合いで社会教育、生涯教育とか図書館学をなさっていた大学の先生がおられて、その方が川柳の句集をずっと何年かに渡って作られて本を出版されています。また、NHKのラジオの土曜日の午後3時から川柳の全国の放送があって、聞いたらすごくおもしろいんですね。生活の知恵とウィットとユーモアと悲喜こもごもとあって。一つの案ですが、どなたかにお願いをして、場所を貸して図書館の施設か2階かを使って、川柳の講座を一般で開いて募集することはできないものでしょうか。何でも結構ですから、高齢の方が本を借りて読むだけではなく参加できるようなプランを少なくとも結構ですから長期的に検討していただけないでしょうか。以上です。

(渋田委員) 渋田です。私は先ほど村山さんが言われたように、子どもが読む本が絵本の時は一緒に図書館に行くんですけど、児童書になる時にかなり離れていく子がいるので、そこを食いとめないといけないと思うんですね。今回福岡市の元館長さんもいらっしゃるんですけども、福岡市とか伊万里市とか苅田町の図書館は子ども専用のカウンターがあって、子どもに直接司書さんが「こんな本だよ」といいながら本の手渡しをされています。そういうことも今後取り入れたらいいかなと思います。

もう一つ、子どもは児童書に対してこんな本だよという説明がないと、絵本と違って想像がつかないので手に取りにくいと思います。カウンターが広がって低くなったので、その上に児童書でも置いてはどうかと思います。隣の新宮町の図書館にはボランティア団体があって2か月に1回くらい児童書の説明しているプリント

を置いているんですが、こんな本ですよってという紹介文が古賀市の図書館にはとても少ないと思います。最近広報に何冊かはあったり、正面玄関入ってすぐに本の紹介のところもあったりしますけど、子どものための本の紹介をもうちょっと取り入れたら子どもも絵本から児童書に行くときに離れずにいるのではと思っています。

(会 長) ありがとうございます。先ほど河村委員さんの方から、高齢者に係わること、学びたい、知りたいという知的要求も十分あるわけだからぜひという一方で、子ども達のいわゆる児童図書の説明なり紹介、PR の努力も必要じゃないかという御意見がございました。加藤副会長どうでしょうか。

(副会長) ヤングアダルトに関しては私も石丸さんや洪田さんと同様な考えです。やはり絵本から児童書に移る、児童書からヤングアダルトに移る難しさはあると思います。自分は小中学校の学校図書館に勤務しましたがけれども、中学生はちゃんと紹介すれば読みます。手渡す私たち側の問題だと私は感じてますし、1度おもしろいって思ったら、中学生ぐらいの子ども達は子どもから子どもへ口コミで結構こんな本おもしろかったよと伝わっていくし、自分も逆に子どもから「こんな本おもしろかったよ、先生読んで」と言われることも多く、学ばされるが多かったです。

今すごくSNSが子ども達の間ではやっていますけれども、例えば、古賀市の図書館のホームページでヤングアダルトの本を紹介して、学校図書館を通して市立図書館のホームページ見てみようみたいな感じで学校図書館の新聞に書いてもらう、何かそんな工夫も割と簡単にできるのではと思っています。その辺で学校図書館との連携もできるし情報交換もできると思っています。

もう1点は、異年齢の交流という観点で、私は河村先生の御意見も本当になるほどいつも思うのですが、ただ1人で本を読むだけではなく、ほかの人と読書の喜びを共有し合えるというところで、ビブリオバトルと読書会というのがすごく有効だなと実感してきました。中学校とかでもビブリオバトルやってきましたけれども、必ず、友達が読んだ本を「これ貸して」といって読む姿があったので、これを図書館で開催したら、きっと楽しいだろうなと思っています。その時に、中高生、例えばすぐ隣の竟成館高校と連携して学生さんにも声かけて、大人にも声をかけて、みんなでビブリオバトルをやるとかっていうのもすごくわくわくすると思っています。自分も福岡県立図書館のビブリオバトルに2回くらい参加したのですが、異年齢、異職種の方との交流が本当に自分にとって有意義でかつ目からうろこのこともありよかったなと感じています。そんなところです。

(会 長) ありがとうございます。ホームページとか、ソーシャルネットワーク、情報メディアの活用、そういった面が一つ。さらにいろんな行事的には、ビブリオバトルとか読書会、読書ディベート、ブックトークの実施とかが必要じゃないかなということだと思います。ありがとうございます。それでは学校関係のほうで橋本委員さん何か。

(橋本委員) 失礼いたします。1点目は行事関係で、図書館から新1年生への読書ノートの配布、市内の6小学校に回っていただいて古賀東小学校にも来ていただきました。ことちゃんは大好評で、今まで紙媒体の資料しか見たことがなかったんですけど、1年生にとって、市立図書館とのつながり、それから読書ノートとの出会いということで、非常に意義ある取組をさせていただいているなと思います。6小学校代表して御礼を申し上げます。ありがとうございます。

2点目ですけど先ほど河村先生もおっしゃいました、図書館は高齢者の方々の学びの場であり生涯学習の場であるということで本当にそうだなと思っております。ハードの本は買えない、だからこそ図書館を利用して多くの本をというお話も、非常に私も印象深く残っております。そういう意味で今市内に8小学校及び3中学校は、地域に学校図書館を開くということで、夏休み、新聞は休刊なんですけれども、4紙の新聞を用意し、地域の方がいつでも来ていただきやすい学校図書館のご案内をそれぞれの学校で工夫しているところです。その際にも、小学校の本だけでは足りない時には、必ず市立図書館にこんな本を貸してくださいということで連携をとらせていただいております。前任校ではそういうシステムが4年間の中で少しずつできてきました。新しく古賀東小学校に赴任いたしましたので、「えんがわくらぶ」の皆さんに図書館カードを本校では作っていただいて、大人になってしっかり本を読んである姿と子どもとの出会いをさせていきたいなと今取組を徐々に進めているところです。

まずは各小中学校で、地域の方の生涯学習の場として学校図書館をアピールしていかないといけないなと思っているところです。どうしたらもっと学校図書館に来ていただけるか、アンケート等も今実施しているところですので、その結果等も御報告したいなと思っております。

最後になりますけど先ほど鈴木会長さんのほうから、本年度は学校図書館年にあたるということがありました。実は学校の教育の中で、糟屋区全小学校中学校、35小学校と中学校で学校図書館教育研究会というのがございます。学校司書と司書教諭とが連携して、子どもが主体的に図書館に行き行って読書を広げ調べ学習で活用する授業をしていこうと、本年度は古賀市で9月21日に昨年度文部大臣賞を取られました古賀西小学校で授業をしようということで計画しております。その際にも、学校司書の先生が図書館に行き行って本を借りてきますということで、前回も授業研修会をしたところです。明日2回目の授業研修会がありますが、常に学校図書館は市の図書館と連携させていただいております、1回100冊図書館の本を学校の方に貸して頂いておりますので、今後も継続していきたいなと思っております。以上です。

(会長) ありがとうございます。開かれた学校図書館を実質的に進めていくということだと思います。そのためにも公共図書館との連携が大事なことになってきますね。

さらには初めてお聞きしてなるほどと思いましたが、学校図書館を活用した実践の授業公開をされるということのようですので期待したいと思います。読書ノートの件、本当に素晴らしいなと思えました。久池井委員さん全体を通して何かありましたら。

(久池井委員) 私、古賀市の図書館は非常によく頑張っていらっしゃると思います。魅力的な内容、行事等もたくさん持っていらっしゃいます。後はそれをいかにアピールして、いろんな方に良さをわかっていただける工夫をするかということだと思います。

最初に会長さんからお話がありました武雄市の図書館も人口6万弱、5万人台ですね。お隣にある伊万里市、武雄市は民間の力を借りていますが、伊万里は直営ですよ。2市とも全国的にも有名ですが、古賀市も人口的には同じくらいです。これくらいの人口規模の図書館は、特色のあるところが多いです。大都市の図書館は、確かに蔵書数がたくさん揃えられます。規模は大きくなるんですが、地域住民との距離感はどうしてもでてきます。古賀市立図書館の良さは住民の方との近さにある

んじゃないかと思えます。

お話の中で非常に着目していたのが7月にありました暮らしの講座、これ魅力的だと思えました。図書館にある本を利用して、それを活用しないと普通の講座になってしまいますので、こんなことがわかるよと。そうするともっと図書館の本を利用したい、また本を読みたいという、掘り起こしにもつながりますし、もともと来ている方はもっと堪能することになりますよね。それが予定していた人数の二倍あったというのは非常良い手ごたえじゃないかなと思えます。

できたらこれこそ交流館を生かして本当はもっと広いステージですと、図書館であっていることを見に行くような、新たな掘り起こしにつながるのではと思うんですね。武蔵野市の図書館には中央に飲食スペースがあって、1階は周りにいろいろな部屋があるんですね。講座を開いている部屋は廊下側の壁がないんですよ。これは魅力がありますね。廊下側の壁がなくてオープンだと、通りがかりの人が本を返しに来たときに立ち見ができるんですね。やかましいやないかということもあろうかとおもいますが、図書館自体はそんなに騒がしい場所ではありませんので、きちんとした事前のお知らせをしておけば、そこまでのことはないと思えます。そうすると、こういうことがあるなら行ってみよう、また次に行きたいなというふうにつながっていくと思うんですね。

今回は暮らしの講座で、農業に関する事で、これも地域性を活かすということも一つありますが、今1番言われているのは医療に関する事で、よく図書館が連携してやっていますよね。福岡市でもあったんですが、病院と連携して病院の先生がお話に来られるんですよ。それで終われば単なる講座ですが、実はその医療に関する本も図書館のコーナーに用意しております。よかったら活用してくださいと。

古賀市だったら、サンコスモがありますからサンコスモと提携してやってみるとか。そうすると両方の利用者がもっと広がっていく。利用者を増やすというのは、今来ている人に何回も来てもらう、それも確かに利用者は増えますが、本当いうと今来ている人はもちろんですが、いまだかつて行かないとなかなか行ったことはないという人にいかに利用してもらうかというのがやっぱり大事なところだと思うんですね。そうすると、図書館の良さをわかっていただけたらと思います。

本の世界、本の文化に親しんでもらうということだろうと思うんですね、大人が親しめば当然子どもも親しみます。今子どもには非常に手が届いているんですね。問題点はよく出ているように、小学校中学校でだんだん親の手が離れてくる段階になると子どもは子どもで忙しくなっていきます。その中でいかに、こういう使い方、刺激的なもの、ビブリオバトルもそうですね、ただ単に本を読むだけでなく、こんなことのために僕達も読みたいという別の動機づけもやっぱりいるかなと思って、先ほどの議論を聞かせていただきました。

ただ、古賀市は本当に子ども向けにも、例えばぬいぐるみおとまり会とかよくされていますよね。これはまた違った趣向ですよ。それからお楽しみ袋も本のお歳暮とかお年玉とかいろんな形でされていますが、おもしろいなと思っていただけることも非常に大事だと思います。図書館をよく使っている方は、自分が本のおもしろさや良さがわかっているならば、それを広げる努力をしていくというのが大事ではないか、その中心が図書館でないかと思えます。

学校図書館も古賀市の規模だったら、お互いの学校の様子が見える立場にあります

すから交流会とか発表会とか、ときには図書館主催であっても良いんじゃないかなと思います。そうすると中学生サポーターの方も活躍の場がまた一つできていくんじゃないかなと思いました。

なかなか面白いこといっぱいされていますし、交流館ができたといういいチャンスもありますので、もっと広げていくということが1番だなと思いました。

(会 長) ありがとうございます。最後のすばらしいまとめをしていただきました。図書館というのは知の宝庫、言語宇宙とも言われています。古賀市の図書館の充実を今後図っていききたいということで、大変充実した第1回になりました。

(3) 今後の日程

(会 長) 今後の日程というところですけども、4月に複合文化施設運営協議会もいたしましたので、今年度は10月と2月に予定しています。来年度は4回予定するというので進めていきます。課題を10月にまた深めたいと思いますが、次回の予定は10月18日火曜日、または21日金曜日の午後でどうでしょうか。職場や学校などに行かないとわからない方もいらっしゃると思いますが、二つの日の案のうちこの日はだめとわかっていらっしゃるれば、どうぞ。

(委 員) 18日がだめですね。

(会 長) そのあたりで次の会議を予定するというのでよろしいでしょうか。では事務局の方からその他をお願いします。

(4) その他

(事務局) 本当にたくさんの御意見をありがとうございました。課題に日頃から思っていること、気づかなかったところを色々出していただいて、今後の図書館活動に生かしてまいりたいと思います。本当にありがとうございました。

その他ですけれども、お知らせということで、サンフレアこがから生涯学習センターリーパスプラザこが図書館と名称も変わりました、休館日も全館統一になりました。今まで月曜日は祝日であろうと休館しておりましたけれども、8月からは祝日のときには開館して翌日火曜日に休館というふうに変ります。第1回目が9月の敬老の日、今までは月曜日で休館だったんですけれども開館して、翌日20日が休館ということになりましたので、よろしくお願ひしたいと思います。

図書館のしおりも皆さんのお手元に配付させていただいておりますのでご覧になっていただきたいと思います。よろしくお願ひします。以上です。

(会 長) ありがとうございます。大変でございますけども、祝日は出てきていただく形になるので、御苦勞なことだと思います。ありがとうございます。

8 閉会のことば

(事務局) 閉会の言葉を教育部長の清水よりいたします。よろしくお願ひします。

(教育部長) 閉会の言葉を申し上げます。今日は外の気温にも負けないぐらい熱い議論をありがとうございました。それぞれの立場で、今日はいろんなアイデアをいただいて、第1回目だったんですけどももう既に2回目が楽しみになってまいりました。ぜひまた2回目にもいろいろなアイデア、御意見をお聞かせいただきたいと思います。本日も大変暑いですが、まだまだ暑い日が続きますので、ご自愛くださいますようお願いをいたしまして、第1回古賀市図書館協議会を終わります。どうもありがとうございました。